

2024年度の研究室配属について考えている学生さんへ

- 私（大島准教授）は学部の講義を担当していないため、研究室配属検討の際に研究室名・教員名を見て「誰？何をやっているの？」と疑問を抱く人が多いと思うので、簡単に説明を書いておきます。研究室選びの参考にしてください。
- 私は情報基盤研究開発センターがメインの所属で、学部・大学院はサブの所属です。そういう先生が他にも何名かいます。
- そのうえ2022年10月に九大にきたばかりのため、現在研究室配属を考えている学生の皆さんとはほぼ会う機会がありませんでした。
- （講義については、いまのところ基幹教育関係や大学院の講義のみ担当しています。）

大島研究室は何を研究するところ？

- 「**高性能計算（HPC）**」について研究しています。簡単に言えば、CPUやGPUを使いこなして計算を高速に行ったり、大規模な計算を行ったりすることについて研究しています。
- 大規模で高速なシミュレーションは現代社会を支える重要な技術です。天気予報や防災、素材開発、創薬など至る所で**高性能計算**の技術が使われています。最近話題のChatGPTなどのAI技術も**高性能計算**によって支えられています。
- 高速な計算や大規模な計算は1台のPCでは性能が足りないため、たくさんのPCを並べて行います。スーパーコンピュータがその最たる例です。しかしたくさんのPCを効率良く使うには専用のプログラムが必要であり、そのようなプログラムを作るには実装やアルゴリズムの工夫も必要になります。それらに取り組むのが**高性能計算**の研究です。
- さらに、新しいCPUやGPUの性能をフル活用するには、それらに対応したプログラムやアルゴリズムが必要です。そのためハードウェアが新しくなるたびに**高性能計算**のやること（研究のネタ）は増えます。
- 高性能計算に必要な知識や技術は、主にプログラム最適化や並列計算です。学部の講義ではおそらくほとんど学んでいません。ですが難しい内容ばかりではないため安心してください。「**プログラミングなんてやりたくない**」とかいう人でなければ大丈夫です。

卒業研究や修士研究ではどのようなことするの？

- 基本的に「高性能計算に関する研究であればなんでもOK!」という方針です。
- 興味のある題材を持ち込んで研究を行ってもOK。
- 過去の研究の未解決問題などに取り組んでもOK。
- もちろん、特に思いつかない人でも大丈夫、やれることはたくさんあります。

- 考えて（提案して）、実験（プログラムを作成）して、評価して、考察して、で1セットです。ちょっとずつやってみましょう。